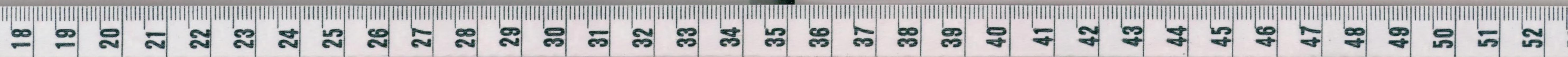
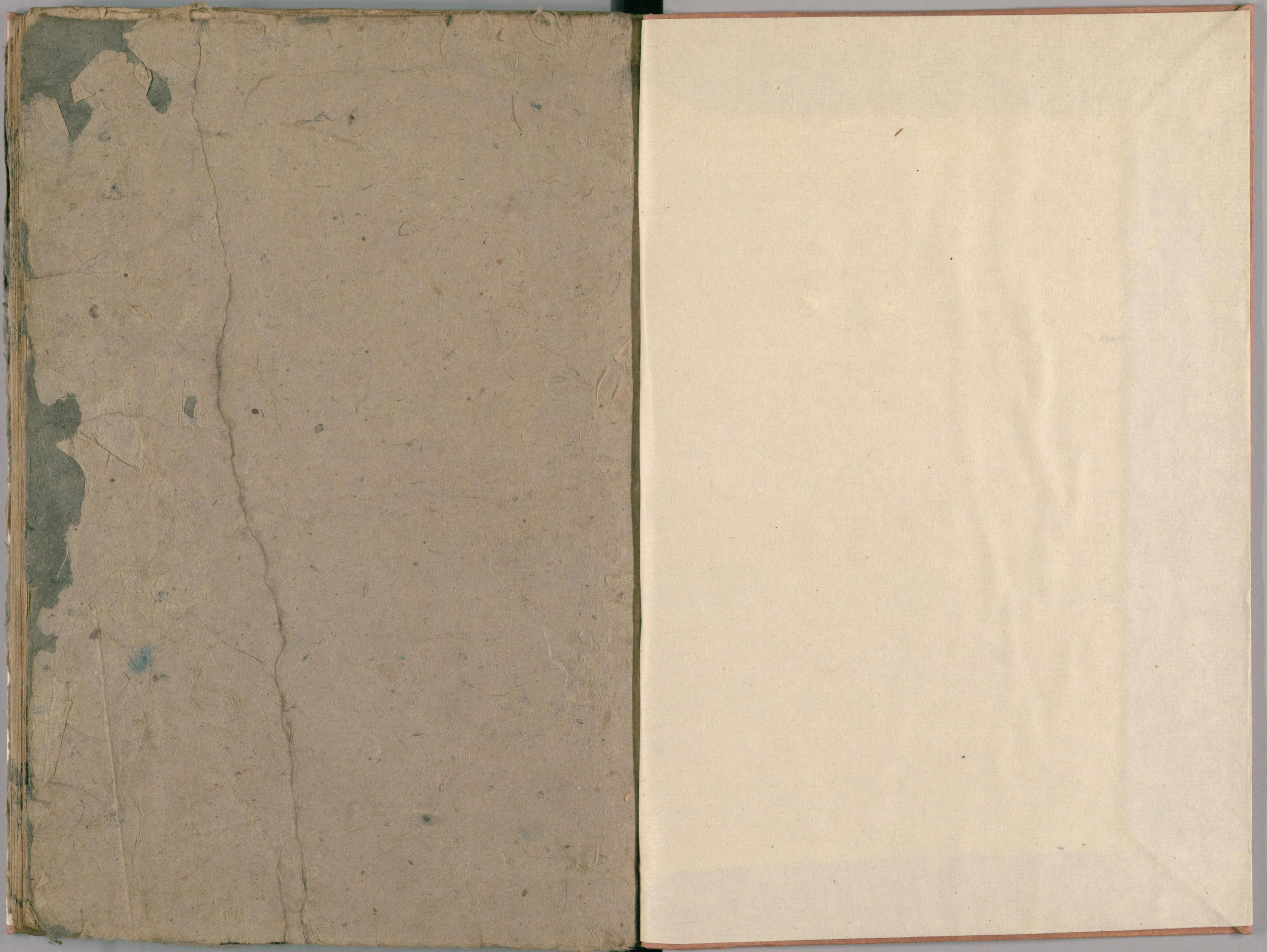


159.
W42k



国立国会図書館 タイトル『かねもうかるの伝受：2巻』 請求記号 159-W42k

ガラス使用



18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52

国立国会図書館 タイトル『かねもうかるの伝受：2巻』 請求記号 159-W42k

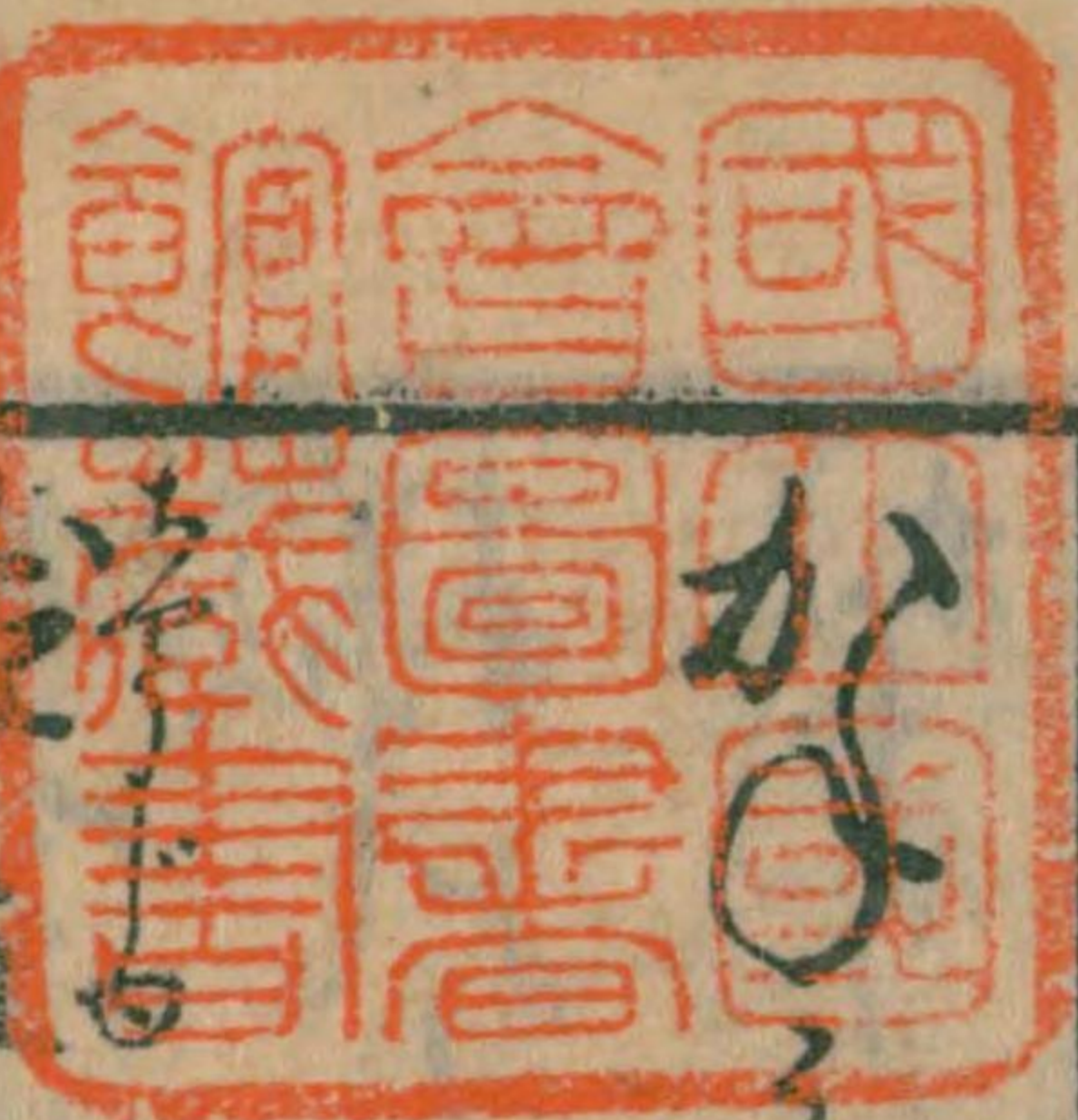
ガラス使用

159 W 42 k



210232





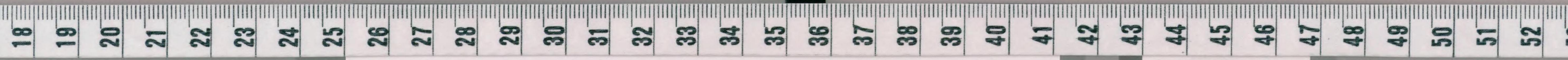
か
ね
もう
かる
の
伝
受
上
ノ
巻

秘伝の巻は皆一はふ平伏し先生ははやくに
安楽したるは傳受くはされいづり有難なる
又今甲の困運おせの御傳受無に銀とさうなる此秘
事傳受をさるんはさうもははく以て有難く此
をたはらむにやなり皆に沙汰の上り候。
○ 翁の曰安楽ありたる傳受と書きて出世候
さうや銀さうなる事ハ銀をたはらむ上り候



好ひやうにえいせいで生い実ん座へ越の人乃
嫌しよのちいへ今もいも人をも少たうふと思ひ
のれ未明う仲山が群集どやうしく世もふ
遊系るもをいしていられ幸にもおひさしき
出どや○人数の中をすしみな出群織にえい使
祈どろかー元へ天意を考ふすやほはあ私を
日暮村の夜屋にりて清でござりませと先生
様れ今日の清傳交在方でもあすをい何より
かり家々に一泊入用ののみた清がうらさびきして

夜のあらぬ清のいそいで新のきいふは傳交の人か
きらふれいやうのしほをたさしすすのぞうと誤で
おさうまん他百人いぞうゆせぬが私か村の若
せいのくす座屋のいり清清を路として銀しける
るし。世すのりい飯よりとも好おで酒や女も印
やににおひてまゝ一人をまゝいりいりませぬ。
○おのの成りてききぬれり海り一人を娘ひいふ
それやう又雨しの好い様もあどや好そおの
ちのにきうで浪をうけを三州お世も誠の好なり



るら。若き今も世の人皆あるふして。始の如く
そむ。一時のこころをたるとのこころをたるとす。是れ其の素の
用ゆる。順ひに次第に富むにあり。若しこれにカ子
モウカル事。百金百中なる者。人々も求む。小まき。しは
何れありて。果て苦くて。吞にいく。毒を忌養生は。十六夜
誰と守りて用ぬ也。又用ひぬ。をこれに。此素味。何
も皆常人の歯ぐに。たぬ。いふ。茶味の。也。子若の
秘方。なま。と。あ。き。ゆ。へ。ね。よ。か。り。ア。ー。カ。子。モ。ウ。カ。ル。比
素方。の。儉。約。堪。忍。家。業。出。情。正。直。知。足。實。義。この

六味と大し。柔和。淨孫。氣量。發明。は。曲。味。の。加。味。小
意。非。一。斤。入。り。て。意。や。ハ。常。の。人。の。人。の。道。と。守。り
より。若。返。て。後。日。納。り。常。に。用。て。身。小。た。も。て。六。万。病。を
治。す。妙。藥。也。火。初。張。虚。少。も。と。ん。な。積。氣。傷。金
て。も。い。ら。る。疝。積。大。傷。も。と。ん。な。氣。ホ。病。も。い。ら。る。
痛。症。多。相。也。全。快。も。ら。る。速。也。あ。ら。う。あ。ら。う。我。世。は
人。皆。我。と。知。有。く。す。も。い。良。藥。を。用。ひ。て。苦。獲
臨。研。中。小。入。隣。家。の。毒。藥。と。疑。り。て。後。亡。る。
ゆ。ん。と。樂。し。む。誠。に。か。ら。い。ま。は。い。ら。る。也。箱。に。い。は



されし其利細くおとしよる當候中かき抱
けりから又御免ら芝蘭乃室少て入志かき身
もあるく惟もかきけりかきかき是光翁
初りあく世の中へかきかき困窮と云志多し
富貴も世と好む志とあきく稀なれ隣家乃
毒薬刀子ちたれ日と地て貴人より我方の良薬刀子
モウカレの日と長く賣のゆきか決り脱は今翁と
見ると士農工商の職と云人とも見く大切の父母の
志と云れまきか遠く遊歴もあきか天下の遊民

して隣家乃刀子ちたれと好人よて我方乃御容あきねと
無益なりあきあき帰せらるる目とむかて
かきかき○かきかき遇と悔後と止くあき帰は
身と性く刀子モウカレ乃一味あき世に有益なりと
あきあきかきかき 彼主候て曰汝も我方乃良薬と
一服ハ吞多し是を以てよくせり業もあきかき用て
刀子モウカレの切能と人よもかきかきあきあき
かきかき 翁は首百洋して尻は帆懸て帰る後
あきあき刀子モウカレと吞多しあきあきあき





伝て始乃傳とす又仕合流浪困窮にあり傳受と
つらき人よ近よも愛しき友と交りし友とたもて
らあり傳とす汝もせめて刀をカハルと傳吾れをせんとて
かたやうもかいつとて母と相く之の泥船先生今
中じし境界ておるも ○泥船白母細く先生
御友は一時年乃あぐらう丁と世三友友小西國
順礼者もさう書新て家かゝりてはつたり
本初者一門一家とさうなり友友達世も世傳して
く重んじし業も氣うすし換校女郎藝子小物

いと御機嫌さゆり情一と別家代々云よ及
あり舟流りつら流浪もさう外さう今更
かんもせんさう茄子賣らも肩ハさう及つん
よもさうさう米端せうも足あさうさう知
物もい汲さうい母音乃伯母とくもさうとた
すかして小判八両さうか友達世を和ら合さ
なせ活せうと依れ親而親き色つるくも思
け男乃世活さうと山名物高ひさうし海さう
もよめやうい多人てもかせして一藪よんと
隨分せいも居



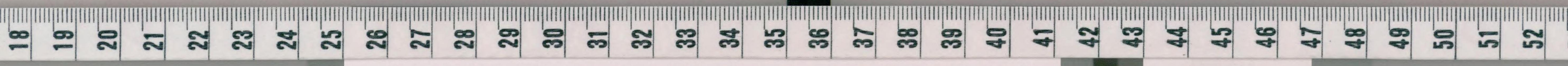
歩よ。一正の大柱ありけり。まははき、剛健しく。
蛇も是ふおそく。蛇の勢ひをり。余らに力あるる。
布衣記。我人同ふも。今より人若く。回報す。
力をわけて。あまんと。あまんと。あけて。あまんと。ま人の
如くに。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。
むらぐ。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。
あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。
蛙の道理。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。
あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。

人に目つた。換はれ。けり。けんれ。むらぐ。あまんと。あまんと。
あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。
あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。
あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。
あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。
あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。
あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。
あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。
あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。
あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。あまんと。



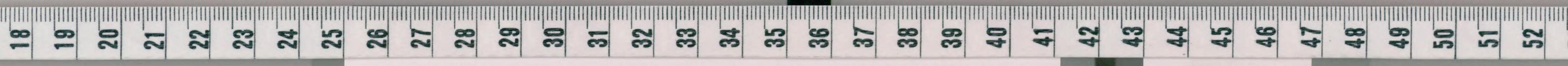
思ふにだしいまはあつづにこそ毎朝く大吏に
 振まうけりて流まうも相の本のすくのびまて大木
 ちし楠のすすのびも幸もむてかうとん大活木
 ふぶくさつたう。翁が知事よまをたむかひ
 老人のりけ男代小勝なる豪家と才とらけ男
 着き時より取心とてさきに只流まうかづのげ
 部をかせげけるま此もまう何とて又かうに流
 流を得んしとて取ひるふのこすぐやのまき
 てもそすかれしとてまのむたむかひにおあ

のけまをいかにかぞえよるんしりるふ。○親父眼じまかて白。
 流かたふふらり。年分にああまうけん。思ひんまあ
 まうけるやれまふちうて流流いもあれ法もた心まき
 ちやそ儉物と用ゆ心自解すぬけの昔作山にて筆
 小むるは又我部あて年分にはあむた流まき
 たりかかて目心も自解心に寫してははあうて。
 流まうけりけるさう目して思ふま流流も筆ま
 流うだあづし儉物儉物を守りた生流れつゝ念か
 大ふく。是もふむられ妙術。又人が大流とまきけり



これより百目を待たし思ふてやちかけはるゝ
や危きやとせぬか換とすしし不白は慕ふもさうさ
可恨激を待つてさやけし海をさへ心待て厘毛をほ
かぬも慕ふの字を待てぬもさうすぐて世の中とん
ほさるゝ大令をまけたら又梨も口持たれた高貴には
ぬりまじるおと厘毛と何そまけけにさへ念がて
かきもさ終ふ大家小女考ぞう我をかに喉百目れ
張をたやうと不がまふ似て百目れ張らるれどさう
て喉百目よりもさかめと思ふ念が大切とさうのさう

中流を費さば万事にゆんがぬお流の舟いつたをれど
万るに流のせぬか数方せ月れあをたすてまじらるむ
け男が心持をりおおれ代ふさかしのれを考ぞうぬ
おふけ若人を百目くしをさうてさうさうむしけ歌文を
今物に世にり愛業の力子もうカルとよく呑んて人となら
まじらるむおとけりかろう吐方と角ひて涙のり呑んでさ
まじらるむカ子つた丸の業をさへ吐いてさうさう又さうさ
二瘡治らあらう○泥地大不感心して曰候これ津津切
ほくさふせんねとさうさうしげ上出せれ侍交し人





望まじきも在れば父母杖やうてきりてはらむ事を都て
 家親の門に通ふるに用なきにやむがらふにすまはら奉る
 義入ふけりいゆはかきとて永居いせぬが忠義をわが
 我ひより初め傷者侍軍此ありとてわづらひづらあはざふ
 食のたすするなぬいりぢあててやま人のさやせ
 各すえよ食をさすはなま老るはゆま忠義 親孝
 ちんそうち礼茶配膳何をもささうにさびきうくさ
 利づら言なきまをけりま礼し親孝不律儀をばさ
 用ひまごかくて是居をさるのさ度つて居候うそとて

心事し来初すまはま人を侍軍中をかあひぐるり
 忠義をさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 出世をせんと思つてをばさるはのさくさく
 心代ふにけりまもも心代の使にかてさくさく
 何のさかたけしはまふがま事をさくさく
 心もさたましするが何れもかても親孝
 困運や出世は侍軍まけりたあられ忠義孝行
 心根もさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 心もさくさくさくさくさくさくさくさくさく



女はづらふはふたふた人なりつゝ宮さまへ人成を多くはひさる。
ゆふけふ何方へゆきても元まづ一と時の衣敷をうして。
風儀をもど使まき之けるゆふふある時まじけりい海を
今も使まき行て同じ風儀も感心之ゆりといふ
ひりし身侍もまゝふくはく女に衣敷を樂しとする
物なれはゆふふともなはぬ格下はるぐとく○書
曰く徳天子將軍より名はぬかたの位とせんはは
をもまてもなれはる人女をそと人れは衣敷を人れは
ゆきか病ていふ私もなる行のこれ相いふは格をま

海はの思まふ事い眞如と存くまきせぬとらはるに
○まおなそそまにいつはらふ格はりりまは○妻の
曰今朝をいを通る女中此衣敷をそとやゆいす。
下まふせん刻もつら格はるたつこの衣敷もまゝゆい
かと思ひ思はるつら思はるつら格下衣敷をゆふふ
はるぐとて草守れいおけられぬで紐ぢんす。紐ぢや。
天衣織毛織いふはくは呉服衣裳を皆まけり
格ありし衣敷も甘ん威候て妻が徳を貴せりや。
これら衣敷も是れゆふふ初り候物を守りゆはは知り





人々も言ふも若くは大家の女をくくると言ふ人の格ある
汝とけ言例よありては幸仕へん元もしてあらざ
丈夫に今さらえげんかせざらぬ ○仁彦の回はてく
九厚者の信ありてしりく。翁く言ふ今まよとるまは。
ま枝い又もふんもせざる此の年付の言ふ汝の元はく
どうしてこそ言ふにまもかせざるの元もといまはれ神とや
侍らるとはけりよ ○翁の回かせざる運也運いかきくこと
いたまはれ 汝よかき家女を早人相に全枝の要を
福があらはれ

かてくしけりも言人の言の上運神は念
○先づふの始て侍りては名をよとら定て御存念
然し拙者もはけ世を今業をくくし婦人こせらる
ほびまする花清の通の信人橋井助と忠も若くは後
少ん初らりては拙者もいざらるる名は因縁わか角
女はか中いざらぬて往來をするもすもを我に誰れ
あつたれは粉義肩山月のごとまよりの上御が我を
けましりてがそげふらるかして思ふごとくツチシく北山
時をいほはらるる。ぬまかきくごもさるは人の言ふ



のたがけり奉の内り若かり婦よ袖そへ袖そひんま
ひやれ生れ身もまへとけきせせりきき父母が志死
りて。このま肉がゆりまへ。山山山西傳りて。類人の
好む千ヤリ首有文音神人の女事此月まうた人がび
かたか今をなよはえと神氏をいませり。ざんざん
神者まあうりて。まきく女性好む百のよてせたり
九十九髪此波き白でもし。ざんざん無に色取らせぬ。
誰て色、まきくも。根ひまきへぬ物も也て。いりて今
此事年くし。たがもあうりて。かたか今も。神志事

なりひりし。せかりでいりて。かたか。あはれ。たのふ付の事と
まきく。わがまけき。や。誰まき。に物れ
たが。拙者が大願い。つり。色事。はたき。たが
まき。人。まき。出。世。花。け。く。誰。まき。に。志。代。し。物。き
ら。ひ。り。秘。家。傳。受。と。わ。り。人。の。人。○。花。後。す。り。も。て。日
傳。受。う。あ。る。し。く。誰。彼。を。し。に。物。れ。き。ま。き。く。い。た。き
は。た。か。今。伝。を。や。つ。り。か。よ。ま。伝。と。大。地。へ。や。り。人。す
ま。け。誰。を。し。彼。を。い。ま。る。物。や。○。助。と。無。款。ま。の
て。日。今。伝。を。や。り。て。か。ま。き。く。い。た。き。今。伝。に。物。の。い。り。て。



拙者いかにまゐるしつゝものおはば拙者かやい金銀もかて
西後小男もいかに後男のいりして西後小人我小物なる
事と得られ秘傳を秘伝をり○翁の曰令親をく。
甲もかまひんまゐるしつゝふ未世業代の人こにまて物と
らまゐる傳受ちりふも何るび子流扱入へ天竺れ
釈迦如来も流のたゞも物く樹下石上のたゞい
坂だもあまをまをまをりかゞいまをまをり大い世界の
中人らまゐいやまは様のだも喚とこもか命をたを
うらゝかまゐりく惚れいゝ今れ世まをりまをり

いばら者いかに又唐れ孔をり海へ流し流し此流
いゝまゐり此令親を時ちりりいゝまゐりまゐり
男かまゐりまゐりねどまゐりまゐりまゐり
女もまゐりまゐりまゐりまゐりまゐり
子もまゐりまゐりまゐりまゐりまゐり
徳者一人物して方を扱ちまゐりまゐり
一人の在玉中お業年や光源氏の思つちんはねん
男もやまゐり今のまゐり娘も後男かまゐり
後男もまゐりまゐりまゐりまゐりまゐり





意をりしき入てわらひ大なるは歌なり。も歌いし不仁
 不義としもの悪くは災也。意に任りてせし室をり
 助也。意しは歌の手は別かひ友事なく。中く義
 をしり知るゆふれど。あ方我師よ。さけらるる。今
 汝がたふかるといふを治りてとくまはなむ。後能
 神帝を野に御座あり。せり。おふに任りて。其の内
 侍。ト。女。ま。ん。ろ。る。宮。氣。美。舞。の。か。れ。た。り。り。一。げ
 号。氏。れ。は。ち。り。け。り。ま。る。は。武。野。を。師。由。か。ね。て。色。歌
 才の非道の若くは。は。肉。肉。を。と。こ。ひ。執。事。して

いらり此計と取用し。あましの家来とせり。其の内
 侍とあまじき。す。り。て。ま。お。く。う。は。し。り。あ。せ。う。げ。ひ
 多。道。を。ま。ま。と。て。ゆ。り。る。お。り。一。楠。正。行。林。海。の
 及。西。に。て。は。ま。お。と。か。け。り。る。が。祖。勇。兼。佐。の。正。行。ら。が
 何。う。あ。や。地。を。ふ。も。思。ひ。す。が。ふ。け。ら。り。師。由。の。家。来。と。こ
 退。れ。ひ。ま。お。と。え。扇。を。ま。ひ。き。こ。ん。だ。女。の。内。侍。の
 あ。ふ。た。よ。う。花。の。如。く。な。げ。き。ふ。ま。づ。み。る。人。姿。い。は。れ。と。こ
 にもたよやう。西。掃。の。あ。ら。の。ま。う。せ。た。ま。り。く。は。は。金。鼓
 貴。人。い。は。れ。た。ら。り。と。早。お。こ。は。せ。な。し。一。帝。人。た。ら。り



美きうつくし富とみ女をんなしをけりけり此この時とき或ある友とも彼かの身みににけりけり汝な女をんなも
彼かの人ひとの女をんなににたたれれたたりりととてて挑ひ心こころけりけり今いま彼かの未な信しん也なり
そそややりり女をんなしをたたりり事ことををたたりり我われ女をんなががたためめ不な嫌きらずず一ひと心こころも
かかひひとと逆さか入いりり女をんな房ぶどうととててししけりけりににもも大おほいいりり
うういいてて白しろのの糸いとくく少すこ路ぢ女をんなの女をんなとと仲なつ人ひとととたたりりままりり
或ある友ともををああららととてて曰いわくく汝な女をんなの女をんなよよいいてて款うけ比ひ如ごとくくいいくくみ
此このららのの女をんなの女をんなととすす美み容かたちももおおいい人ひとにに女をんなをを余あま
いいじじににけりけり汝な女をんなととももいいたたりりとといい心こころいいりりけりけり
事こととともも此このららのの事ことををいいたたりり我われははここのの事ことををいいたたりり

思おもひひたたししめめれれしし時ときををいいたたりり我われははここのの事ことををいいたたりり
ををいいたたりりてて我われとと酔よめめしし心こころををいいたたりりけりけり
女をんなををいいたたりりしし女をんなとといいたたりり又また我われとと周しゅう撫ぶかかくく
脚あしももいいたたりり女をんなの女をんなとといいたたりりけりけり又また我われとと周しゅう撫ぶかかくく
容かたち儀ぎ半はん分ぶんななららずず心こころの清きよ淨じやう故ゆゑ人ひとももいいたたりり又また我われとと周しゅう撫ぶかかくく
女をんなををいいたたりりしし女をんなとといいたたりり又また我われとと周しゅう撫ぶかかくく
又また我われとと周しゅう撫ぶかかくく女をんなの女をんなとといいたたりり又また我われとと周しゅう撫ぶかかくく
汝な女をんなよよいいたたりり女をんなとといいたたりり又また我われとと周しゅう撫ぶかかくく
いいたたりり女をんなの女をんなとといいたたりり又また我われとと周しゅう撫ぶかかくく
いいたたりり女をんなの女をんなとといいたたりり又また我われとと周しゅう撫ぶかかくく

十四




けつ^{けつ}の通^{とほ}はく^くう^うは^はい^いの^の義^ぎ貞^{ぢん}や^やか^から^らに^にし^しも^も
せ^せん^んが^がま^まう^うく^くこ^この^の身^みの^の命^{いのち}や^やま^まず^ずして^{して}は^はな^なを^を
誰^{たれ}も^も志^しさ^さふ^ふ此^{こゝ}の^の心^{こゝろ}を^をま^ます^す心^{こゝろ}が^がす^すぐ^ぐに^に自^{みづか}の^の言^{ことば}
こそ^{こそ}又^{また}意^いなり^{なり}今^{いま}む^むし^しと^とな^なら^らず^ず武^ぶ野^のの^の困^{くわん}
名^なの^の武^ぶ士^しを^を婦^ふも^もく^くも^も言^{ことば}け^けら^らふ^ふけ^け某^{あまが}上^{かみ}を^をれ^れ
帝^{てい}遊^{ゆう}女^{にょ}ふ^ふを^をく^くも^もく^くも^も言^{ことば}け^けら^らふ^ふは^はい^いふ^ふが^が
う^うけ^けし^しは^はま^まう^うく^くこ^この^の心^{こゝろ}を^をま^ます^す心^{こゝろ}が^がす^すぐ^ぐに^に自^{みづか}の^の言^{ことば}
あ^あそ^そく^くも^も本^{ほん}妻^{さい}を^をけ^けら^らふ^ふは^はい^いふ^ふが^が某^{あまが}と^と妻^{さい}が^が
奸^{けん}曲^{きよく}に^に迷^{まよ}ひ^ひ或^{ある}日^ひ妻^{さい}を^をけ^けら^らふ^ふの^の心^{こゝろ}を^をま^ます^す心^{こゝろ}が^がす^すぐ^ぐに^に自^{みづか}の^の言^{ことば}

家^{いへ}と^と進^{すす}む^むは^はく^くも^も妻^{さい}に^にあ^あら^らは^はす^すま^まが^が家^{いへ}を^をむ^むく^く
か^から^らい^いり^りあ^あら^らは^はす^すま^まが^が家^{いへ}を^をむ^むく^く
す^すも^もあ^あら^らは^はす^すま^まが^が家^{いへ}を^をむ^むく^く
か^から^らい^いり^りあ^あら^らは^はす^すま^まが^が家^{いへ}を^をむ^むく^く
あ^あら^らは^はす^すま^まが^が家^{いへ}を^をむ^むく^く
う^うら^らめ^めけ^けら^らは^はす^すま^まが^が家^{いへ}を^をむ^むく^く
ま^まが^が家^{いへ}を^をむ^むく^く
あ^あら^らは^はす^すま^まが^が家^{いへ}を^をむ^むく^く
に^に通^{とほ}り^りて^て感^{かん}涙^{なみ}を^をよ^よび^びぬ^ぬて^てあ^あら^らは^はす^すま^まが^が家^{いへ}を^をむ^むく^く

くやみ彼妻を遣ちりぞけ。借老のちぢりゆき
けり。いふまじりく業。とてや此妻が妻。一
迷ひの色歌をり。又妻がむけり。存げを
きふ。いふまじり。い。惻隱の心。そ。きす。あ
急をり。又妻が。真情。真心。小感。お。恥を悔
も。泣く。羞。悪。そ。わん。の。ゆ。て。急。れ。ま。る。人
情。を。や。急。の。心。れ。あ。る。人。い。く。又。人。の。情。と。ち。ぢ。よ。
人。ふ。も。又。く。お。せ。り。お。を。り。
力。を。つ。も。人。い。い。ま。で。お。梅。り。き。り。せ。ら。か。ん

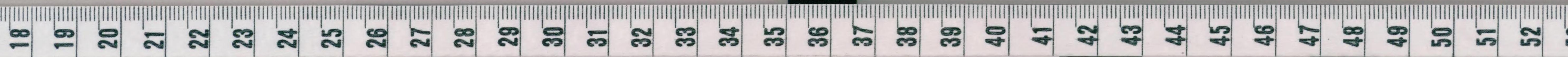
け。和。の。貞。婦。貞。子。が。あ。り。く。お。夫。の。よ。く。入。り
た。ま。ひ。て。通。さ。ち。を。い。ひ。お。月。の。ゆ。り。き
日。い。し。ゆ。く。お。り。い。の。ま。り。に。夫。が。妻。を。る。の。も
お。い。ゆ。く。ま。れ。ぬ。も。て。い。う。ま。り。に。さ。び
お。り。は。い。ん。と。酒。や。れ。の。福。ん。ご。り。い。の。人。は。い。や
よ。み。て。送。り。け。る。ふ。妻。も。貞。子。が。情。を。あ。い。し
あ。い。と。お。の。貞。心。を。感。づ。き。い。て。ま。ま。り。く。お。切。お
お。い。は。り。人。を。り。く。お。い。は。り。お。貞。子。が。美。情。を。あ。い
す。い。ゆ。り。お。い。く。お。世。界。の。女。は。誰。も。あ。い。に



 1671

寄附	停	備	考
書			
名			

受伝のうかねか
 二巻



国立国会図書館 タイトル『かねもうかるの伝受：2巻』 請求記号 159-W42k

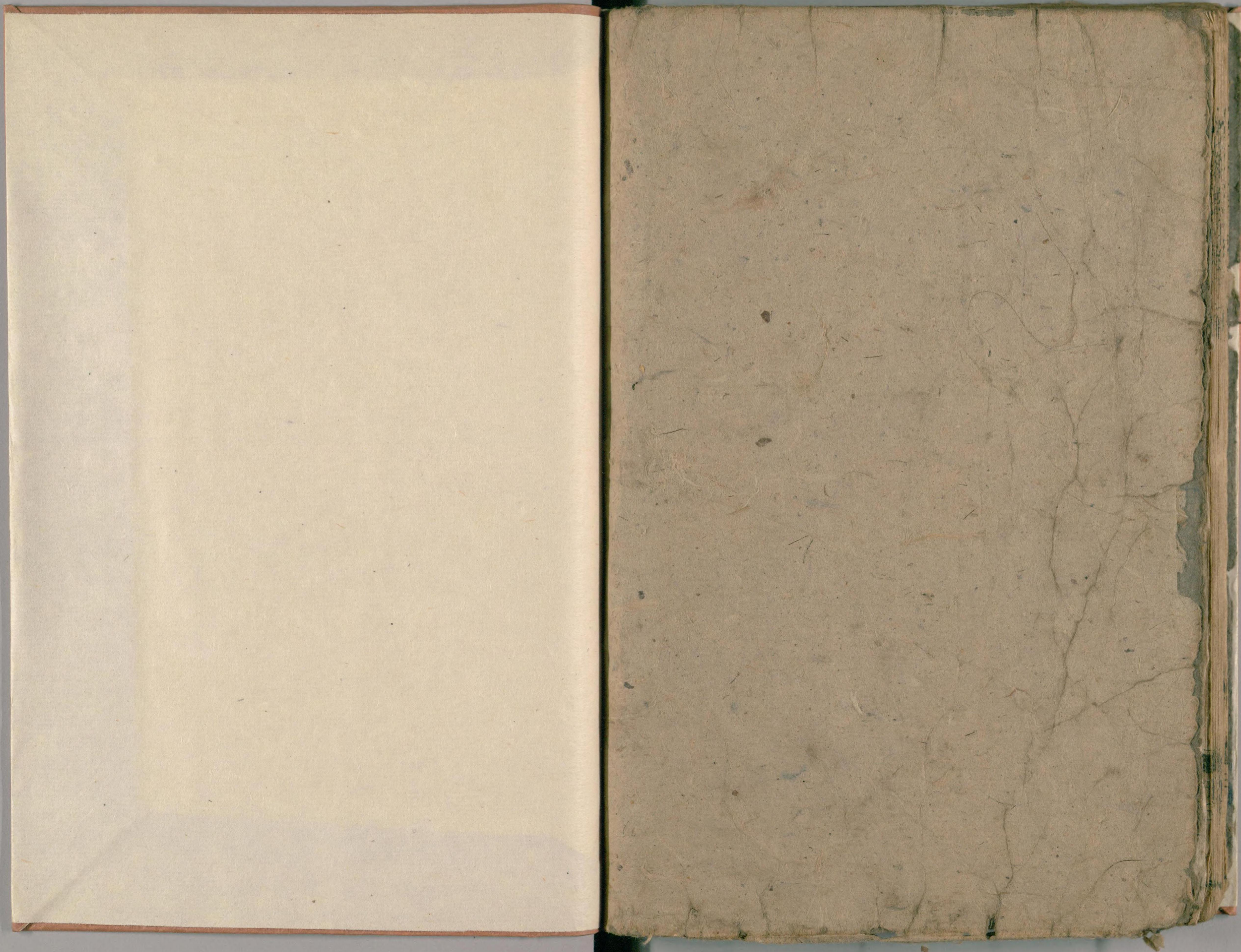
ガラス使用

W. 724
a1

かねもうかるの伝受 小巻紙

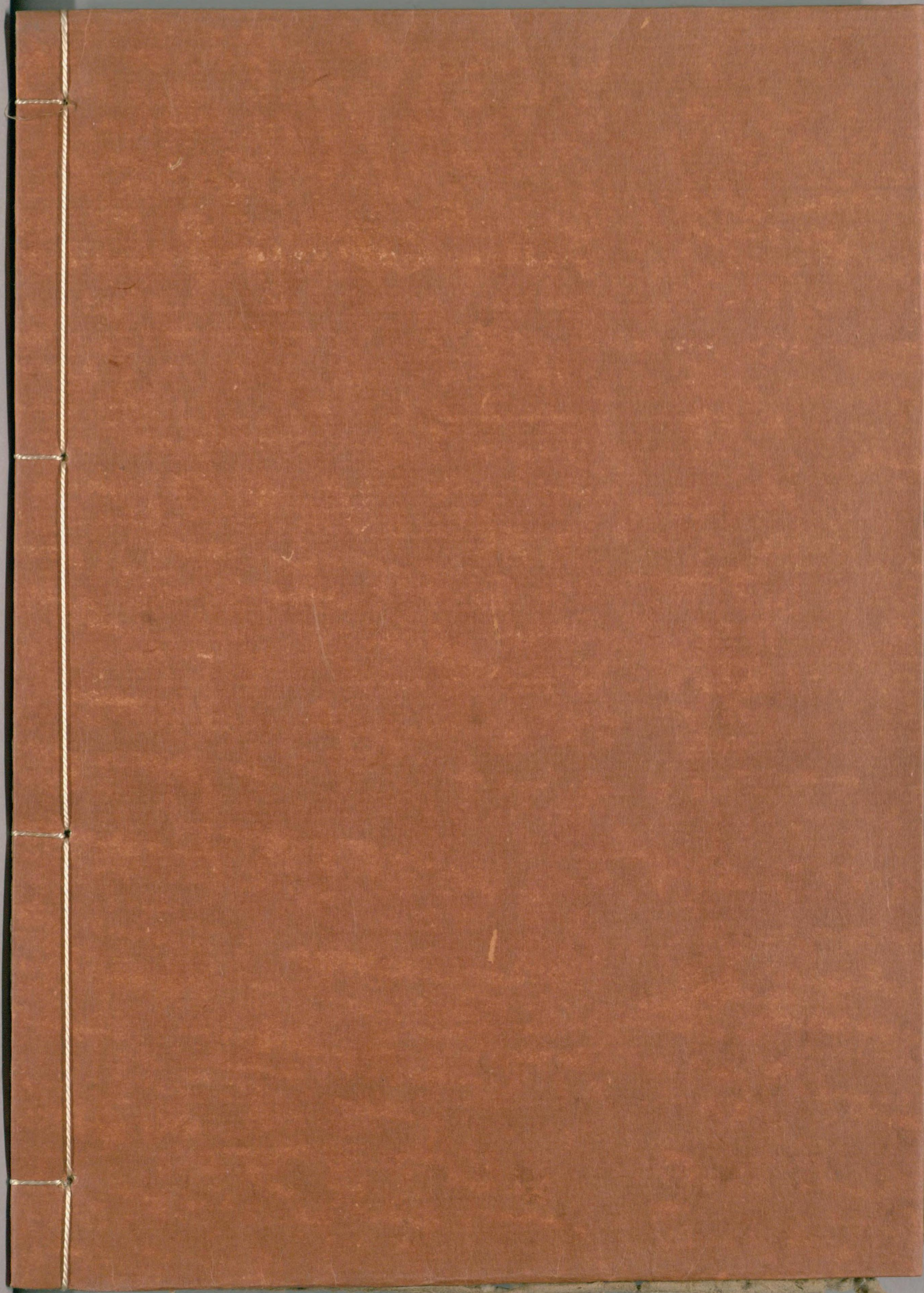
昭和三十九年





国立国会図書館 タイトル『かねもうかるの伝受：2巻』 請求記号 159-W42k

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『かねもうかるの伝受：2巻』 請求記号 159-W42k

ガラス使用